

他教科との関連を意識するとともに語彙の定着を図る評論文の授業 ー哲学評論の入り口としてー

- 1 科目名 現代文B
- 2 単元名 評論
- 3 教材名 黒崎政男「『私』を置き去りにする身体」
- 4 単元の内容

単元の目標 と評価規準 ・評価方法	<p>① 単元の目標</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding: 2px;">ア 現代社会や世界史につなげて哲学的知識を理解している。 (知識・理解)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">イ 抽象的な語彙を適宜日常語彙に変換しながら、読解している。 (読む能力)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">ウ 人間存在の不思議さについて哲学的な興味関心をもつ。 (関心・意欲・態度)</td> </tr> </table> <p>②単元の目標設定の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校国語で扱う評論文を通じて生徒に深めさせたい内容の筆頭は、哲学的思惟である。しかし、私見であるが、子供たちの自我の目覚めはかつてよりも遅くなっている。高校入学当初に哲学的なテーマを投げかけても期待したほどの反応が返ってこず、2年生になってやっと哲学評論を読める素地が出来てくるというのが実感である。こうした現状の中、時間数の少ない現代文の授業だけでは、生徒に芽生えた哲学的思惟を十分に深めることは難しい。この問題に対応するため、現代社会や倫理や世界史など、同種の内容を扱う科目と関連させながら、生徒の中に教科横断的な哲学世界を組み上げていくことを計画した。地歴公民科の担当者に、既習事項や、今後履修する予定の事項とその時期、扱い方を確認し、同時に国語科における扱い方を伝えて、縦割りに終始しがちな高校の学習を学際的にするのである。 ・本単元の内容は、一般的な身体論を二十一世紀の現状を踏まえて発展させたものであり、高度でありながら、文章自体は論理の飛躍が少なく説明が丁寧である。そのため、論理展開を追う技術の復習として扱える。加えて、評論に頻出する抽象語彙が多用されていることにも注目したい。中学校段階ではあまり多く出てこないこうした語彙は、高校国語を学ぶ上で障壁となるため、語彙を焦点化して授業を行うことには一定の意義が認められる。抽象語彙を体感的に日常的な表現に変換させることで生徒の抵抗感を緩和しようとする。 <p>③中心となる学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前の家庭学習として学習プリントに取り組み、穴埋めによって文章の内容の概略を把握するとともに、主な内容の説明に取り組んで授業担当者のチェックを受ける。返却されたプリントに朱書きされたアドバイス及び授業の説明によって自分の読解の問題点を把握し改善する。 ・本単元には、冒頭に表れる、心身二元論の嚆矢となったデカルトを始め、何人かの哲学者が登場する。その思想内容を詳しく扱うことはできないが、生徒にとって既知の存在にすることを狙って、現代文評論に頻出する他の思想家と併せ、肖像画や写真を繰り返し見せることで顔と名前、さらに思想内容を示すキーワードが一致するようにする。 ・本単元が説明している人間疎外について、生徒の日常を取り巻く現実や時事的な問題とも関連させる。可能な限り、そうした具体例を生徒が案出するように求める。 ・抽象語彙の意味については、辞書を引かせるのはもちろんであるが、自分の語彙として使えるようにその語のニュアンスを実感させるための活動を行う。また、言い換えの課題に取り組むことで、抽象語彙の必要性や便利さを実感させる。 <p>④言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入の活動 人間存在に関する課題について、生徒相互に意見交流をさせた後、クラス全体の人数比を挙手によって確認した上、指名して発言させる。 課題①「周囲がイメージしている自分と本当の自分とは異なっているか否か。」 課題②「人間にとって身体と精神とではどちらが本質的か。理由とともに述べよ。」 ・単元途中の課題 文中に出てくる人間疎外の例について、身の回りにある別の例を生徒同士で想起させたり、関連した新聞記事を読ませたりする。(本指導案実施の平成25年12月には、人物本位入試をパノプティコンと関連させて論じた朝日新聞の記事や、餃子の王将社長射殺事件に関して付 	ア 現代社会や世界史につなげて哲学的知識を理解している。 (知識・理解)	イ 抽象的な語彙を適宜日常語彙に変換しながら、読解している。 (読む能力)	ウ 人間存在の不思議さについて哲学的な興味関心をもつ。 (関心・意欲・態度)
ア 現代社会や世界史につなげて哲学的知識を理解している。 (知識・理解)				
イ 抽象的な語彙を適宜日常語彙に変換しながら、読解している。 (読む能力)				
ウ 人間存在の不思議さについて哲学的な興味関心をもつ。 (関心・意欲・態度)				

近の走行車両の事故記録用映像が捜査に活用されたという報道などの例を引用した。)

・言語知識にかかわる課題

抽象語彙は辞書の説明を書き写すだけで十分理解できるものではない。そこで、生徒の実感としてその語意が理解できることを狙って、生徒相互に語のニュアンスを動作でやらせてみる。例えば、「疎外」なら外へ押し出す感じ、「齟齬」であれば両手を食い違うように動かす感じである。これは、授業中に生徒に語意の相互確認をさせると、自然に手が動かす様子が頻繁に監察されたため、そのまま学習活動に取り入れたものである。

また、文中の具体的で長めの表現を漢字二字の抽象語彙に言い換えさせ、字数制限のある記述問題に使用させたり、抽象語彙を使用しないで言い換えた冗長な文章を作らせたりして、その便利さと必要性を実感させる。

・出口の課題

本文の要約を書かせた上、哲学的なテーマについての小論文を書かせる。単元と直接関連したテーマとして、「自分にとって、身体疎外と精神疎外のどちらがより問題だと考えるか、実例を挙げて論じなさい。」が考えられる。他には、授業時数の関係で触れられないテーマ、例えば、「『空気を読む』ことを強く求める社会は利点と弊害のどちらが多いか。」、「治癒の見込みがない病に苦しむ人が死を望んだ時に何を言うか」、「自然を守るために文明的な生活をどの程度放棄できるか」など。時間があれば、マイケル・サンデルの「白熱教室」を見せて、意見を書かせることも考えられる。

⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
読む能力	①身の回りの例を想起しながら、文章の内容を理解している。 ②論理展開を的確に把握しながら、文章の内容を説明している。	観察（机間指導） 指名による確認 点検（学習プリント、ノート）	学習プリントに指示を書き込んで問題点を指摘した上、必要に応じて個人指導を入れる。 生徒相互の活動に積極的に参加するよう促す。
知識・理解	①代表的な思想家の顔と名前が一致している。 ②抽象的な語句の意味を動作によって表現できる。具体表現と抽象語彙を相互に変換している。	観察（机間指導） 指名による確認 確認テスト	覚えていない生徒、活動に参加していない生徒については、注意を促し繰り返させて定着を図る。 追加のテストを行う。
関心・意欲・態度	①示された哲学的な課題について、自分の意見を述べている。 ②抽象的な語句を自分の言葉として使おうとしている。	観察（机間指導） 点検（学習プリント、ノート）	書きあぐねている生徒には、質問をして口頭で言わせ、授業者がメモをとったものを渡してアシストする。

成果と課題

- ①肖像を繰り返し見せて思想家の名前を印象づけたことは、今後の評論読解にささやかながらも一助となると期待される。また、哲学的なテーマの授業は、テストで測る数値化された学力とは別の知的好奇心の深浅を顕在化させた。これまで現代文の授業に前向きではなかった生徒の中で、高い興味を示して参加する者が出てきたことは大きな成果として確認したい。地歴公民科の授業では思想を扱う部分は意外に少なく、特に理系と文系の履修内容の違いが予想以上に多いことが判明した。地歴公民科で扱う内容を種子として、言葉を通じて哲学的思惟を発展させる仕組みを国語科がもたねばならない。
- ②今後どの程度生かせるかは検証できていないが、抽象語彙に対する抵抗感を減らすことには一定の効果が認められた。特に、語意を動作によって確認させるという手法は、概念を可視化、体感化させることができ、どの高校現場においても普遍性があると思われる。
- ③授業活性化のために活動的な場面を多く入れると、単元全体が冗長になる。評論読解の眼目は、「言いたいこと」を的確かつ端的に射抜くことだが、細部の読解を丁寧に行うとかえってその本義を失う。この弊害は、最後の要約をさせる際に戸惑っている者が少なからずいたことによって明らかになった。
- ④評論が自力で読めるようになるためには、結局生徒自身が難解さへの抵抗感を克服するしかない。また、評論家の「言いたいこと」を理解するには、教科書、問題集、テストで扱う短い文章では不十分であり、例えば新書を一冊読み通すことなどが求められる。一冊を読み通

	す経験は生徒の知的な体力を最も効果的に鍛え上げてくれる。哲学的な評論を扱うことが、せめて鷲田清一や内田樹などの読みやすい評論家の書籍への入口となるようでありたい。
アドバイス 及び 留意点	①哲学的、抽象的な評論の理解は、対象となる生徒の発達段階や生活実態に大きく左右される。自我の目覚めが不十分な生徒や、自分の生活の中で哲学的な思惟を必要としない生徒に対して、こちらの求める理解を得ようと深追いしても授業の実は上がらないと心得るべきである。現代文の授業は、すべからず生徒の実態に接続することが必要であるが、特にこうした単元においては、生徒の興味ある実例や、生活実感から出発し、彼らが今立っている階段から一段でも上がるための準備を周到にすべきである。また、指導者が準備した実例よりも、クラス内の生徒の発言の方が授業の推進力になることも念頭におかねばならない。哲学的な思惟の深さは表面に見えている生徒の姿と必ずしも照応していないので、やんちゃで子供っぽい男子が死の意味について自分の思うところを語ったりすると、その刺激の強さは絶大である。 ②抽象語彙について生徒は「なんでわざわざこんな分かりにくい言葉を使うのか」という疑問をもっている。それを氷解させないかぎり、評論読解に対して前向きにはなりにくい。言うまでもないが、抽象語彙は端的に思考を表現できるだけでなく、複数の具体的な現象を概念によって橋渡しすることができる非常に便利な道具である。道具の便利さを実感させるためには、自分で実際に使わせてみるに如くはない。抽象語彙を使った文と使わない文とを比較させたり、冗長な文を示して抽象語彙によってすっきりした文に書き換えさせたりといった仕掛けを準備することで、難解さへの抵抗感を緩和できる効果が期待できる。
小中学校との 系統性	①(中学・2年・C読むこと) ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。 ②(中学・3年・C読むこと) イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○本文を通読し、主題に対する構えを作る。	<ul style="list-style-type: none"> 自分という存在についての課題に対する自分の考えを意見交換する。 デカルトをはじめ、主要な思想家の肖像を示し、クイズ形式で名前を当てる。 教科書の本文を通読した上、筆者が示す身体と精神との関係を自分なりに把握する。【指ア】 学習プリントの穴埋め課題に取り組み、その結果をグループで意見交換して、記入した内容を正確に修正する。【指ア】 *本文の主題への興味関心を喚起する。 <ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くの生徒に発言をさせ、問題意識を共有させる。 肖像を示す思想家については、国語科内で話し合い、地歴公民科からの情報を考慮した上で選定する。 学習プリントの次時提出を指示。 	<p>自己の存在という哲学的テーマに興味を示し、自分の意見を述べるができる。【関】</p> <p>↓</p> <p>観察(交流の様子) 指名発言</p>	<p>関心の薄い生徒に関しては、その後の授業の中で発言を求め、授業の流れについてきているかを確認していく。</p> <p>↓</p> <p>学習プリントの状況によっては、個人指導をする。</p>
2 (本時)	○比較の関係をとりえ、本文の内容を端的に理解する。 ○抽象語彙の意味を感覚的に把握する。	<ul style="list-style-type: none"> クイズ形式で、前時に示された思想家の肖像と名前を一致させる。 語句調べの結果(学習プリントに指示あり。各自のノートに実施)を互いのノートによって確認、修正する。【指オ】 学習プリントの図式に従って板書の空欄を埋め、二つの「身体疎外」を比較する。(逆接に注目) 「神経系だけが拡張する」の身近な例を話し合いによって案出する。【指ア】 抽象語彙の辞書的な意味を再度確認した 	<p>思想家の肖像と名前を一致させることができる。【知】</p> <p>↓</p> <p>観察(交流の様子)</p> <p>比較の関係をとりえ、本文の内容を理解できる。【読】</p>	<p>個人的に指名して一度自分の口で言わせる。</p> <p>↓</p> <p>次時の交流の様子を観察し、適宜個人指導を入れる。</p> <p>学習プリントに書き込みをして、考え方を示す。</p>

		<p>上、生徒相互に動作によってそのニュアンスを実感する。「疎外」「齟齬」</p> <p>【指オ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文中の表現を抽象語彙によってコンパクトに言い換える。「声高に叫ぶ→主張」「いちばんはっきりと表現→典型」 臓器提供への賛否を話し合い、「意思表示」「自己決定権」を具体的にイメージする。【指ウ】 <p>*「言いたいこと」を端的にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「精神が主、身体は従」複雑な評論も、主張は短く要約できることを毎時示す。 <p>*地歴公民科との関連を示す</p> <ul style="list-style-type: none"> デカルトの心身二元論がどんな科目のどの時期に出てくるか(来たか)を確認する。当該教科書を持参して見せるのもよい。 <p>*最後に学習プリントを提出させる。</p>	<p>↓</p> <p>学習プリント 指名発言</p> <p>動作を通じて抽象語彙の意味をイメージできる。【知】</p> <p>↓</p> <p>観察(交流の様子)</p>	<p>↓</p> <p>必要に応じて指名して理解の度合いを確認する。</p> <p>指名して語彙の理解の度合いを確認する。</p> <p>↓</p> <p>授業後に簡単な確認を行う。</p>
3	<p>○資料でバイオメトリクス認証を具体的にイメージし、それが人間存在に与えた影響を本文からの確に読み取る。</p> <p>○繰り返し言い換えられている内容に着目して、筆者の主張を読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> クイズ形式で前時に示された思想家の肖像と名前を一致させる。何人かの思想内容を示すキーワードも運動して覚える。 「最先端のテクノロジー」として頭に浮かぶものを相互に出し合う。 実際のバイオメトリクス認証の例をネットのカタログから知る。 返却された学習プリントの朱書きを確認して、自分が本時に理解すべきポイントを把握する。 逆接に注目しながら、学習プリントの解答確認を通してバイオメトリクス認証がもたらす人間存在の変化を把握する。 <p>【指ア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「意識を経由しないアイデンティファイ」という内容が何度も言い換えられていることに注目し、それが筆者の強調したい点であることを確認する。【指ア】 前時の抽象語彙を復習する。「端的」「危惧」を動作でイメージする。【指オ】 「身体と私」の説明を本文に沿って行う。 <p>*具体例の幅を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐藤雅彦企画の「これも私と認めざるを得ない展」出品作品などを例として示す。 <p>*「言いたいこと」を端的にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「テクノロジーの介在で従来の『精神が主、身体は従』という関係が揺らいだ」。 「言いたいこと」の把握が不十分な生徒をプリントによって事前に把握しておく。 	<p>バイオメトリクス認証について具体的なイメージができていく。【読】</p> <p>↓</p> <p>観察(交流の様子)</p> <p>言い換え表現に注目して、筆者の主張を把握できる。【読】</p> <p>↓</p> <p>学習プリント 観察(交流の様子)</p>	<p>授業後に声をかけて理解度の確認をする。</p> <p>↓</p> <p>授業の様子を観察する。必要に応じ個人指導をする。</p> <p>指名して理解の度合いを確認する。授業後に個人指導を入れる。</p> <p>↓</p> <p>授業の様子を観察する。定期考査の結果を確認する。</p>
4	<p>○パノプティコンの象徴する電腦社会の特性を、資料と本文を通じて理解する。</p> <p>○抽象語彙の知識を増や</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト形式で前時に示された思想家の肖像と名前とキーワードを一致させる。(復習) 文章のみでパノプティコンをイメージして言葉で伝え合った後、図で確認する。 学習プリントの解答確認を通して、パノプティコンの象徴する意味と、それがもたらした人間存在の変化を理解する。 <p>【指ア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「第二の看守」という比喻の説明の仕方について、説明を通じて自分の解答を修 	<p>比喻表現を的確に言い換えるとともに、パノプティコンの象徴する内容を理解できる。【読】</p> <p>↓</p> <p>学習プリント 観察(交流の様子)</p>	<p>意見を交換する時間に個人指導をする。</p> <p>↓</p> <p>授業の中で反応を観察する。状況によっては個人指導をする。</p>

	す。	<p>正する。【指ア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「遡る監視」について、自分で身近な例を案出する。【指ウ】 ・抽象語彙を動作によってイメージする。「第三者」「内面化／対象化」「象徴（具体／抽象）」「遍在・偏在」「集大成」【指オ】 <p>*具体例の幅を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連した種々の資料を準備しておく。 <p>*抽象語彙を図式化して示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に「内面化／対象化」と「象徴（具体／抽象）」に関しては、重要性を強調し、対義語として絵や図によって印象に残す。 <p>*「言いたいこと」を端的にまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「二十世紀的な人間理解である『精神が主、身体は従』が逆転した」。 <p>*生徒の誤答を確認し指導内容を決めておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第二の看守」の言い換えの間違い方を類別しておく。 	<p>対義語を中心に、抽象語彙の体系化ができることを理解する。【読】</p> <p>↓</p> <p>課題への取組観察（交流の様子）</p>	<p>個人的に指名して動作を行わせる。</p> <p>↓</p> <p>要約・論文の文章を通じて理解度を確認する。その後の授業の様子や定期考査の結果を確認する。</p>
5	<p>○筆者の主張をつかんで的確に要約する。</p> <p>○哲学的なテーマについて自分の立場を明確にして具体例と抽象語彙を用いて論じる。</p>	<p>・前時までの内容を復習して、二十一世紀における人間疎外を確認する。</p> <p>・二十世紀的な発想と二十一世紀的な実態を比較しその違いを理解する。【指ア】</p> <p>・理解した「言いたいこと」を世界史の流れに位置づける。（産業革命と市民革命を契機とした世俗化の中で、科学技術が惹起した人間疎外の意外な例）【指ウ】</p> <p>・本文の内容を端的に要約する。【指エ】</p> <p>・哲学的なテーマに関する小論文を、出来るだけ抽象語彙を使いながら書く。【指エ】</p> <p>*これまでのノートを活用させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に比較の関係が自分のノートから明らかに復習できるかを自己評価、相互評価させる。 <p>*地歴公民科との関連を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に世界史との関連を、生徒から知識を引き出しながら位置づける。「近代」が評論の主要テーマであることを確認する。 	<p>本文の内容を比較の関係を中心にして端的に要約できる。抽象語彙を使用しながら哲学的テーマに関する自分の意見を文章化できる。【書】</p> <p>↓</p> <p>点検(ノート) 優秀作・注目作をまとめたプリント</p>	<p>ノートの該当箇所を示してやるとともに、書くことをしゃべらせメモさせた上で書かせる。ノートにアドバイスを朱書。他の生徒の文章を読ませる。</p> <p>↓</p> <p>次単元以降で上達がみられた場合は個人的に評価する。</p>

6 第2時の学習指導案

本時の位置	2時間目（全5時間）		
本時の学習目標	<p>ア 内容の比較関係の把握を通して本文の内容を読み取っている。（読む能力）</p> <p>イ 抽象語彙の意味を動作によってイメージできている。（知識・理解）</p> <p>ウ 地歴公民科の授業と関連させて哲学的なテーマに対し興味をもっている。（関心・意欲・態度）</p>		
事前の準備	<p>①学習プリントを前時に配布し、取り組ませておく。（本時の最後に提出させる）</p> <p>②地歴公民科の担当者と打ち合わせて、生徒が既に学んでいる思想的な内容と、今後の予定を確認する。</p> <p>③デカルトをはじめ、主な思想家の肖像画や写真を拡大コピーし、黒板に貼れるようにマグネットを付ける。</p> <p>④臓器提供意思表示カードやコンピュータゲームのパッケージなど、活用できる具体物を準備する。</p>		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入	□思想家の肖像と名前を一致させるク	①黒板に示された思想家の肖像を見て名前を当てるクイ	・気楽なクイズという位置づけで開始し、地歴公民科の復習という導入は避ける。

7分	<p>イズに取り組み、地歴公民科との関連を意識する。</p>	<p>ズに、隣席もしくはグループの生徒と相互に取り組む。 ②ルソー、アダム・スミスが現代社会で履修済みだと確認、他の思想家も今後の授業で登場することを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 知識を多くもつ生徒がいれば称揚する。可能なら、思想内容についても発言を求める。 実際の教科書で視覚的に確認する。 <p>目標ウに対する評価規準と評価方法 〔規準〕 ・クイズに積極的に参加し、発言をしている。 〔方法〕 ・観察(机間指導) 〔状況Cの生徒への手立て〕 ・個別に参加を促す。 ・次時の参加状況によって個人指導を入れる。</p>
展開 40分	<p>□本時の課題の確認</p> <p>□語句の意味の確認</p> <p>□比較の関係の読み取り</p> <p>発問 どの言葉に着目すると表が埋まるか。</p> <p>発問 「神経系だけが拡張」とは具体的にどんなことを指すか。</p> <p>□動作による抽象語彙の意味の実感課題 「疎外」「齟齬」を互いに動作で示せ。「声高に叫ぶ」「いちばんはっきりと表現」をそれぞれ漢字二字で言い換えよ。</p> <p>□自己決定権について実感をもって理解する。</p>	<p>③主要な課題を確認する。</p> <p>④隣席・グループの生徒と語句の意味を確認し合う。</p> <p>⑤学習プリントに従って互いの解答を確認し合った上、グループで代表者を決めて板書した対比の表の空欄を埋める。</p> <p>⑥教科書本文の「だが」の前後に着目し、内容が対照されていることを確認する。</p> <p>⑦「神経系だけが拡張する」の例を交流を通して案出する。ゲームの好きな生徒がプレイ中の意識の在り方を説明する。</p> <p>⑧抽象語彙の辞書的な意味を再確認した上で、互いにその意味を動作で示す。</p> <p>⑨文中の長めの表現を短い抽象語彙に言い換える。</p> <p>⑩抽象語彙を使用した場合としなかった場合を比較して、その利点を考える。</p> <p>⑪臓器提供の是非について隣席と交流し、指名された者が理由とともに意見を発表する。</p> <p>⑫「生命倫理」の他の例を交流を通して案出する。</p>	<p>目標アに対する評価規準と評価方法 〔規準〕 ・逆接の言葉に注目し、二つの身体疎外を対比しながら内容を理解している。 〔方法〕 ・学習プリント ・板書の解答 ・観察 〔状況Cの生徒への手立て〕 ・学習プリントに朱書きでアドバイスを書込む。 ・逆接の言葉がマークされているかを確認し、前後の内容の関係を口頭で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 板書の比較の表は上段に「デカルト的」下段に「電脳的」の内容を整理できるように作成し、学習プリントと体裁を一致させる。授業開始前に書いておくと効率的。 「このクラスでゲームの好きな子とえば？」と問いかけ、指名してプレイ中の身体疎外状況を語らせる。 「疎外」の文例を複数用意しておき、それらに共通するイメージを動作で行わせる。 <p>目標イに対する評価規準と評価方法 〔規準〕 ・動作を通じて抽象語彙の意味を自分のものになっている。 〔方法〕 ・観察(机間指導) 〔状況Cの生徒への手立て〕 ・周囲の生徒の動作を真似させるとともに、個人的に口頭で理解の度合いを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 抽象語彙の利点を視覚的に理解させる具体物として「ふえるワカメ」を利用した。乾燥したものと水で戻したものを示して、それぞれを抽象語彙と具体的事実に対応させて説明する。
まとめ 3分	<p>□本時の課題の答えを各自でノートにまとめる。</p>	<p>⑬「デカルト的」「電脳的」の二つの身体疎外の共通点を端的にノートにまとめ、隣席と確認し合う。</p> <p>⑭学習プリントの提出。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時冒頭で思想家クイズを復習することを予告。 抽象語彙の意味についても復習をしておくように指示する。